杜甫

年　組　氏名（　　）

杜甫の五九年の生涯を五つに区分し、ながめることにしよう。

希望あふれる第一期（一歳～三五歳）

杜甫は七一二年、唐の玄宗皇帝即位の年に河南省鞏県の中流士族の家に生まれた。幼くして母と死別、叔母に育てられた。杜甫の若いころの詩は残っていないが、回想詩「壮遊」や「百憂集行」などで、若くして文学に親しみ、意気ごみも盛んであったことがわかる。

七齢思いは即ち壮んに
口を開きて鳳皇を詠ず
九齢　大字を書し
作有りて一囊を成す
……中略……
中歳旧郷より貢せらる
気は屈賈の墨を劘し
目は曹劉の牆を短とす
（「壮遊」）

七歳のころに文学に思いを入れ、鳳皇という詩を作って口ずさみ、九歳の時には大きな字を書き、詩や文章でふくろがいっぱいになった。

二〇代半ばごろ、私は郷貢生として都へと送り出された。意気ごみは昔の文人、屈原や賈誼に戦いを挑まんばかりであり、詩人の曹植や劉楨をも眼下に見下すほどであった。

七三八年、二七歳で結婚。七四四年に杜甫は長安から追放され、山東に向かう途中、たまたま洛陽を通りかかった李白と、奇跡的な出会いをした。時に杜甫三三歳であった。このときから、杜甫は李白にかぎりない尊敬の念をいだくようになった。

動乱の中の第二期（三五歳～四八歳）

七四六年、三五歳で杜甫は長安に出る。翌年中央の特別試験をうけるも落第。生活にも困った。

七五五年やっと官に任ぜられ、家族のいる奉先県へ行く。その時安禄山の乱が起こり、杜甫は兵乱をさけ、家族と別れ、一人新帝のもとに向かうが、途中、賊軍にとらえられ、長安に軟禁された。

この時有名な「春望」をつくる。やがて長安を脱出し、家族と奇跡的な再会をする。しかし、彼は政界をうまくわたっていけず、年ばかりとっていく。その中で飢餓などの食糧問題・政界における見通しがつかないことなどによって、政界に進出する夢をすてると同時に、社会派詩人といわれるような詩もつくり出すのであった。

車轔轔　馬蕭蕭
行人の弓箭　各々腰に在り
耶孃妻子　走って相送る
……
君見ずや　青海の頭
古来白骨　人の収むる無く
新鬼は煩寃し旧鬼は哭し
天陰り雨湿るとき
声啾啾たるを
（「兵車行」）

轔轔＝車の走る音。ゴロゴロ。
蕭蕭＝馬の鳴き声。ヒヒーン。
弓箭＝弓矢。
行人＝出世兵士。
耶孃＝父母
青海＝ココ－ノール（湖）。
新鬼＝死んだばかりの人の幽霊。
啾啾＝亡霊の泣くうらめしげな声。

貧苦の中の第三期（四八歳～四九歳）

官をすて、華州をはなれた杜甫は、家族とともに親せきをたよって秦州（甘粛省天水県）へ向かった。しかし、ここでの生活は非常に貧しく、三か月ほどいて、同谷（甘粛省成県）に移ることになったが、ここでも旅ばかりで、貧しい生活が続いた。そのころの詩に、「男子と生まれながら、名をあげることもできないうちに年をとってしまった。三年このかた、あれた山中の道を飢えにかられて走り回った。……富貴を得るには若い頃から努力するべきなのであろう。」（乾元中、同県に寓居して作れる歌）と、自らの身の上をなげき悲しむ内容のものがある。

安らぎの中の第四期（四九歳～五四歳）

七五九年一二月、一か月ほどいた同谷を去り、安住の地を求めて成都に来た。そこに小さな家（草堂と名づけた。）を得て、近隣の温かい援助と友人の往来に久々に一家は安らぎの日々を過ごす。

水流れて心は競わず、
雲在りて意は倶に遅し。
（「江亭」）

川の水の流れのままに心をまかせ、
雲と同じに気持ちをのんびりさせる。

だが、貧乏はついてまわった。「狂夫」という詩のなかで、「恒に飢うる稚子（子どもたちは）色（顔色は）凄涼（いたましい）」と、うたっている。

七六三年正月、安禄山の乱が収まり、杜甫は故郷に帰ろうとする。しかし、都は未だ不穏で帰るに帰れず、望郷の思いはつのる。

絶句　杜甫

江碧にして　鳥逾白く
山青くして　花燃えんと欲す
今春　看すみす又過ぐ
何れの日か　是れ帰年ならん

江の色は青色で、鳥は一層白く
山は青緑で、花は燃えるように赤い。
今年の春も、またまたたくまに過ぎ去っていく。
ああ、いったいいつになったら帰れるのか。

異郷に没す　第五期（五四歳～五九歳）

七六五年、杜甫は安らぎの家（草堂）をはなれ、揚子江上流の岷江を下り、揚子江に入って、今の重慶、忠県、雲陽を下り、洞庭湖に至った。ここで有名な「岳陽楼に登る」をつくった。その最後の部分。

親朋　一字無く　今の私は知り合いから一字の便りもなく、
老病　孤舟有り　老いと、病む身にただ一そうの舟があるのみ。
戎馬　関山の北　戦乱は北の故郷では続いている。
軒に憑って涕泗流る　楼の手すりによりかかって涙を落とす。

杜甫は、死ぬ三年ほど前から、ぜん息、神経痛、糖尿病などをわずらっていた。帰郷の夢は果たせないまま、七六九年の冬、潭州から岳州へ向かう舟の中で没した。